

千刈狸の呟き

今まで経験したことのないようなはやり病のため、この1年半ぐらい狸たちは巣穴を中心とした生活を求められました。できるだけ出かけず・集まらず、できるだけ話さず、できるだけ触らず…孤立する狸はそのまま放っておかれてしまう世の中かもしれませんが、SNSの普及のおかげで狸たちはお互い何とかつながっていることができます。

気持ちが落ちるような話はいくらでも出てきますが、このような世の中だから「おうち時間」ということについて思いを巡らせてみることにしました。

もちろん、おうちではできない仕事をしている狸は多いでしょう。仔狸も仕事場に行かないとできない仕事ではありますが、数多くの仕事に関連した集まりはキャンセルあるいはリモート開催となり、バタバタと車を走らせて空港へ向かうということもなくなりました。結果として「おうち時間」が増えたことになりました。

おうち時間でやりたいと思っていたことの一つに、巣穴の周りを整備して家庭菜園を作るというのがありました。雪が溶けて暖かくなってきたこのごろやっと動き始めましたが、果てしもなく大変な作業であるということも最近実感しています。

冬の間雪で覆われていた地面が顔を出すと、昨年やり残した枯草たちが顔を出す。枯草をどうやって処分しようと思っているうちにつくしが始まる、気づくとすぎなになっている。すぎなは根が張っているからこのままでは畑が作れない…というわけで今年の家菜園は諦めることにしました。数年来巣穴回りの整備をしなかった仔狸に与えられた天罰と考えることにしました。

仔狸の巣穴は山の斜面の何も無いところにありましたが、親狸が何年もいろいろな草木を植えてきてくれたおかげで1年中いろいろなものが楽しめます。食することができるものとしては筍に始まり、梅、ブルーベリー、栗、キウイフルーツ、柿…冥加や蔦、山椒も庭に生えてきます。

今年は家庭菜園を諦めたので、庭に生えているものを大切にいただくことにしました。巣穴を作るときに植えた孟宗竹は毎年5月の連休頃には期待を裏切らずに出てきてくれます。時々迷子の筍

～あたえられたもの～

仔 狸

が小屋の際などあらぬ方向に出てくるので侮れません。3～4日に一度、気づくと4～5本の筍が出てくるので掘って→洗って→茹でて→半日放置して→皮をむいて→配るという作業をここ数週間は繰り返しています。はやり病のせいで狸同士のかかわりが疎遠になっているという話とは相反しますが、収穫したものはおいしいうちに配らないと仔狸の巣穴の冷蔵庫がいっぱいになってしまうからこっちは懸命なのです。スーパーで売っているものに比べればお粗末な感じですが、仲間と季節を分かち合うことができることはこの上ない楽しみと思えます。

仔狸は季節のもの、特に初物に対してただならぬ思いがあるような気がします。

初物七十五日ということわざがあり、初物を食べるとその人の寿命が七十五日延びるというもので、もともとは死刑の決まった罪人の願いで初物が出るまで七十五日刑の執行を遅らせたというようなことがあったからなのだそうです。医術を生業としている仔狸はあろうことか身内狸の死期を意識した時に真面目に七十五日毎に初物を食べさせれば死なないかもしれないと思ってしまったのです。もちろん、初物を食卓に出して、「今年初めてだな…」と言って食すのはとても微笑ましい光景であることなので、仔狸の不死の願いは叶わなかったけどそれでもよしと思えます。

このはやり病に最前線に対応している狸や呼吸不全で苦しんでいる家族を持つ狸から見るとふざけた話と思われることでしょうか。この1年半余りで失ったもの、与えられたもの、いろいろありますが、失ったものを取り戻そうとすることも大切ですが、与えられたものを守りながら少しでも前を向いていけるようになってくれたらと思います。ワクチン接種が広く行われた近い将来に、このはやり病と共存すれども負けない世界があることを願っています。

さて、狸の巣穴にもどりますが、次なる産物の梅の実も少しずつ大きくなっています。一昨年は5つの実がなったので梅酒にしてみました。昨年は25個の実がなったので梅干しに挑戦しましたが、「梅干し的」な不思議なものことができました。今年こそは正しい梅干しを作りたいと思います。